

子どもの数が減ってるってどのくらい？
政府の支援政策はある？
それみんな知ってる？

皆さんで出産子育て世帯への情報発信に
ついて考えていきたいです！



若者向け出産・子育て情報の内容と発信方法の考察
～出産・子育てが選択しやすい世の中へ～

ワークショップの目的と概要

背景

日本の出生数は年々減少、過去最低を更新し続けている
子供を多く生んでもらうための政策・法案の整備が進められている
ただ政策を知らない人が多く活用できないのではないか

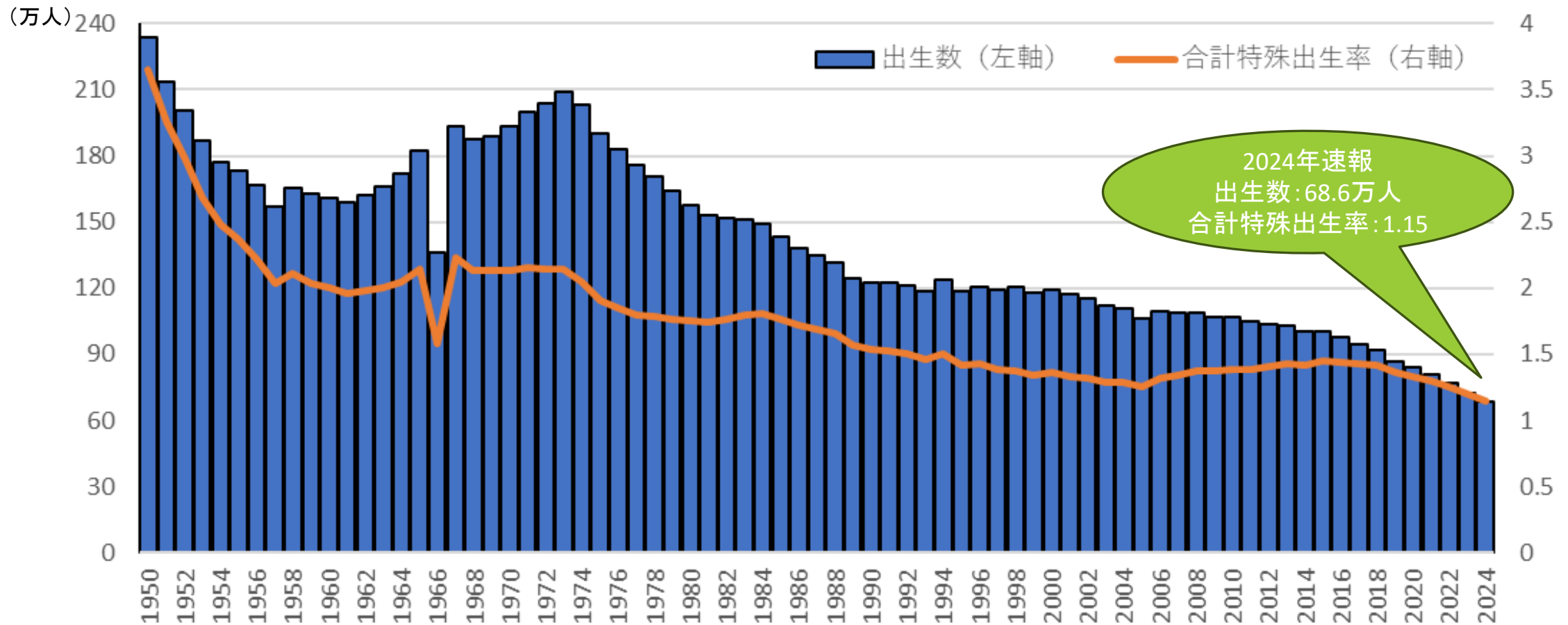
目的

日本の子育ての現状について プラスのことを多く発信できるようにしたい
特にこれからの世代である10代～20代に刺さる情報提供ができるといい

分析 手法

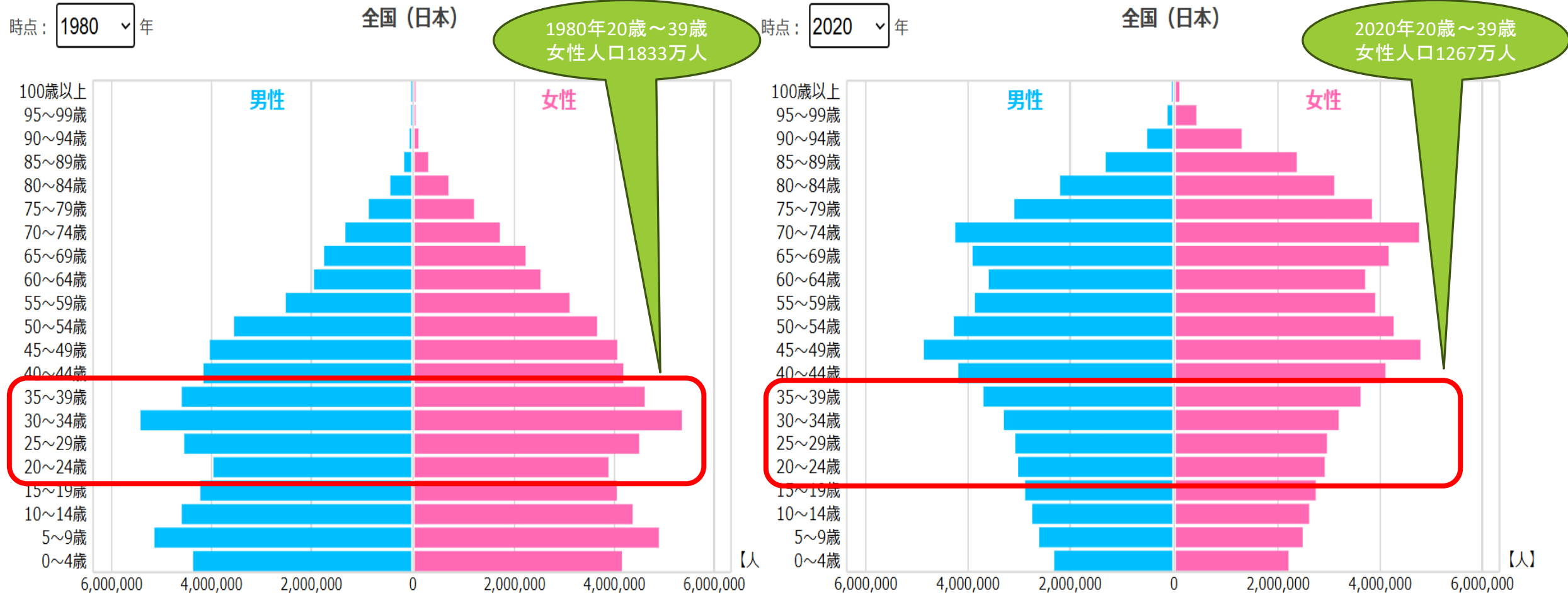
- ①ブレインストーミング+KJ法 提供すべき情報と提供方法について要点整理
- ②ペルソナ設定+ジャーニーマップ作製
- ③ペーパープロトタイピング 情報発信方法・内容案の作成

出生数・合計特殊出生率



日本の出生数は近年減少を続けており、2024の速報で70万人切って過去最低
1人の女性が平均して一生の間に何人産むかを表す合計特殊出生率も1.2を切り過去最低を記録

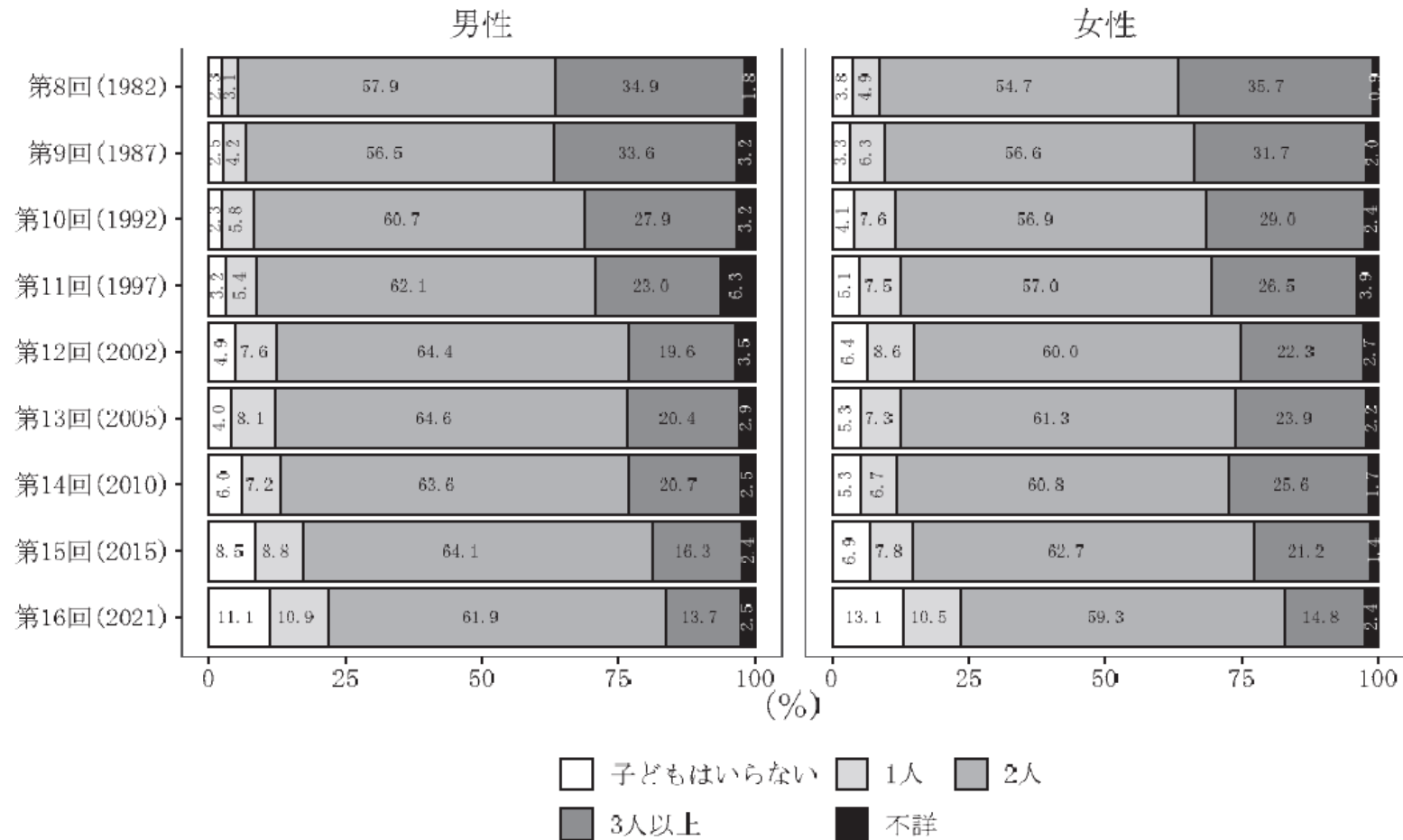
年齢別人口(5歳階級、1980年と2020年比較)



少子化が進んでおり、若い世代の人口が減少

20～39歳の女性人口は1980年に比べ2020年は約2/3に減少、今後も減少見込→産み手の減少

未婚男女の希望子供数の分布

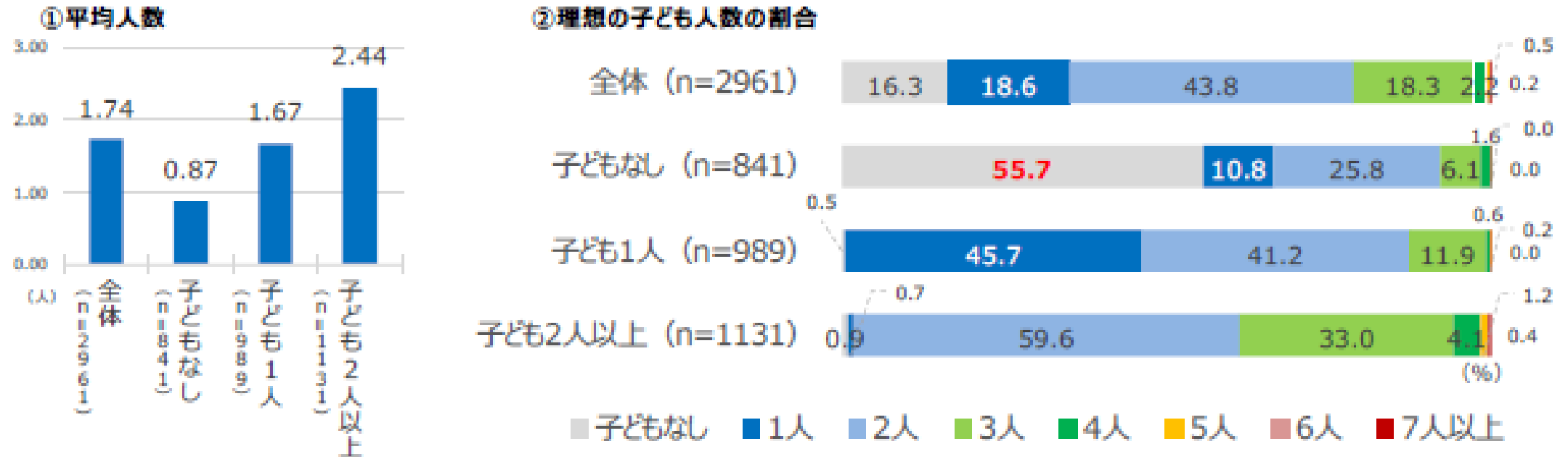


どの調査年においても2人を希望する割合が6割前後と時代とともに変わらないが
いない(0人)や1人の割合が増えてそれぞれ近年1割を超える結果に

夫婦世帯が考える希望子ども人数

【グラフ3】 理想の子ども的人数

Q. 何人の子どもを持ちたいですか？ 実際の予定ではなく理想の子ども合計人数をお知らせください。



理想の子供人数について子供がいない既婚者では半数以上が子供はいらないと考えている

こども家庭庁の政策プラン

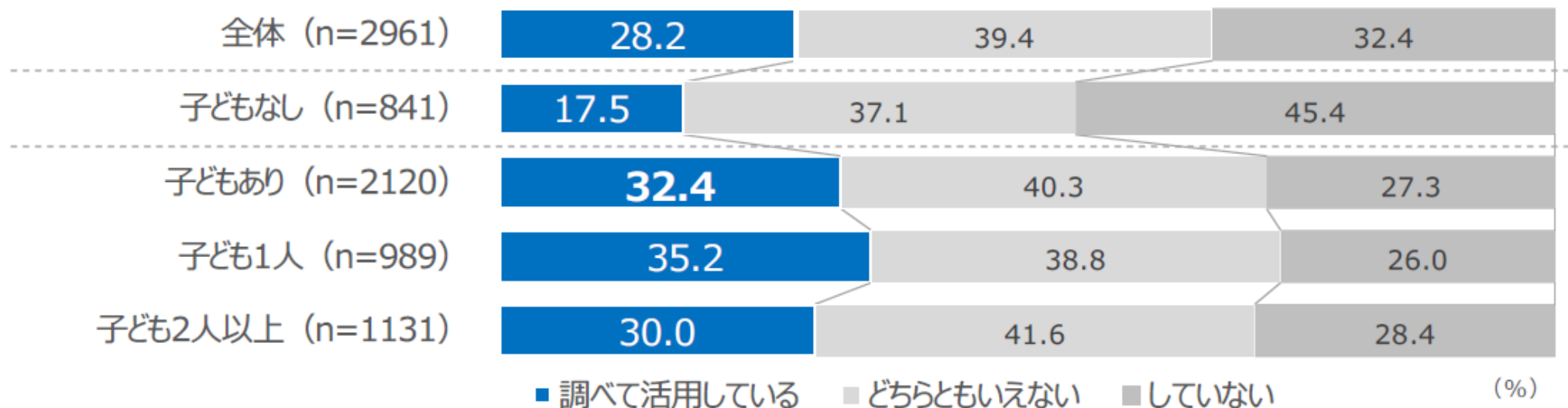


少子化に歯止めをかけるため、政府としてもいろいろな方面（主に経済方面）からの政策をいろいろ打ち出している

政府の支援制度について調べて活用している人の割合

【グラフ8-2】 国や自治体の出産・子育て支援制度について調べて活用している人の割合

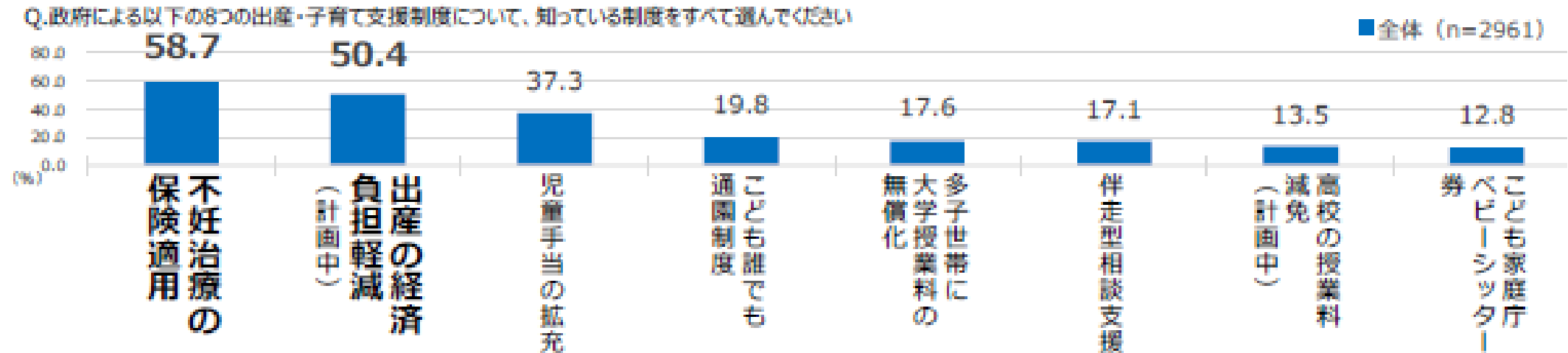
グラフ8-1で「制度について調べて活用している」と答えた人の割合



支援制度について既婚者でも調べて活用している人は3割ほどしかない

既婚者における主な政府支援制度の認知率

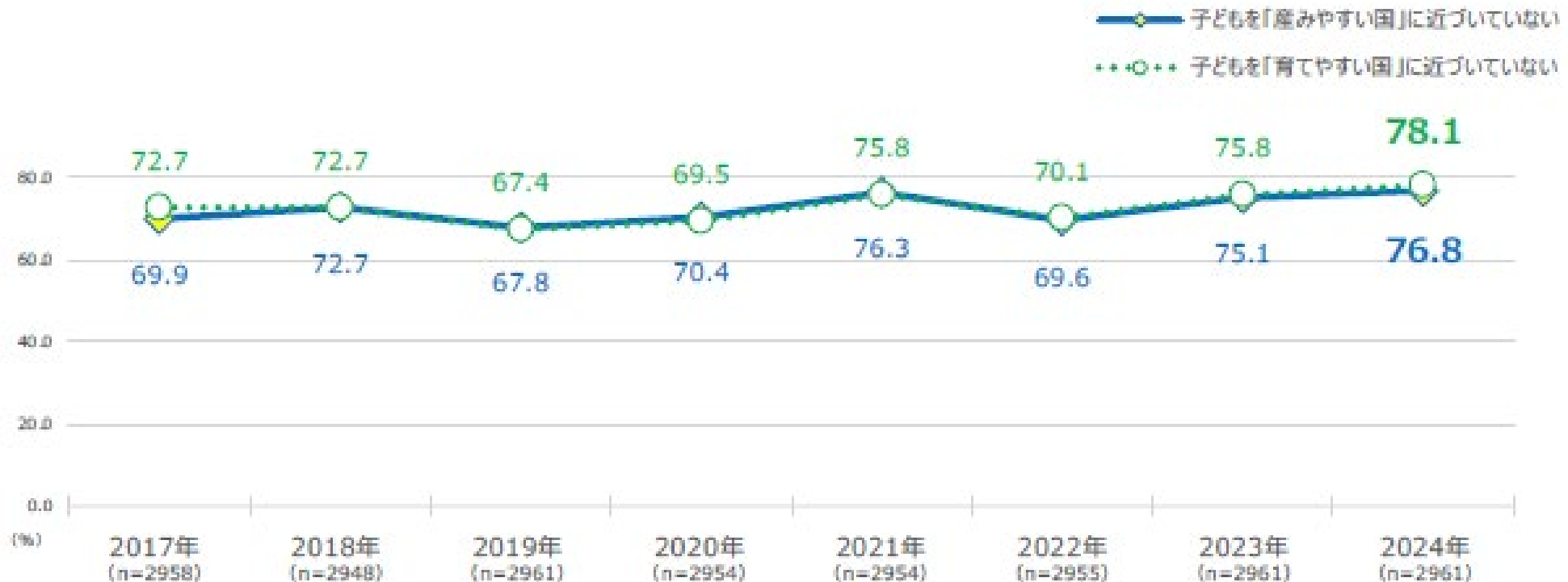
【グラフ10】 政府の出産・子育て支援制度の認知率（複数回答）



既婚者でもほとんどの人が政府の支援制度について知らない

出産育児がしやすい国に近づいているか

【グラフ1-2】日本は子どもを「産みやすい国」「育てやすい国」に近づいていない（経年変化）



およそ8割の人が日本は出産子育てしにくい国に近づいていないと感じていて、最新の結果では、近づいていないと感じる割合が過去と比べ最も多い結果に

データからわかること・考えること

- 出産子育て世代の人口が少子化により減少しているため、
生まれてくる子どもも減少している
- 多様性の社会の中で、産まないを選択する人も増えている
→ちゃんと判断して産まないとしているならよいが、
何となく経済的などの不安で子どもをあきらめていないか
- 政府による政策はある程度あるものの認知度や利用度合が低い
→主に経済的な支援があるが使えるものは使ってほしい
- そのうえで日本を子育て出産しにくい国と感じている
→まず現状を知ってもらうことが大事ではないか